

還暦・古希・喜寿そして
傘寿談議
徳島剣山世界農業遺産支援協議会 会長
永井 英彰

**支援協総会で数々の実績報告
剣山系世界農業遺産、着実に進展**

徳島剣山世界農業遺産支援協総会の総会及び懇親会が八月二十七日、JR徳島駅西のホテル・ザ・グランド・パレスで八十人を集めて開かれた。平成二十七年六月から二十八年八月までの間に、山口県長門市「アグリアートフェスティバル」(安倍晋三首相夫人昭恵さんら主宰)に参加、交流フランス人画家マークエステル氏の上宮大栗神社奉納など三十五項目の活動を、スライドを見ながら報告した。昨年は徳島銀行生涯学習振興財団より三十五万円の助成金を



剣山系を農業遺産への総会



実験田は雑草がはびこる



観客が多い畑づくり



提供の苗を植え付け

受けていたので、決算報告もした。

続いて日本で最初の禁煙カフェを持つ九百坪の土地、建物と空間を「アイトワ」と名付け、循環型のエコライフを実践している森孝之氏(京都市右京区嵯峨小倉山)が講演、出席者に感動を与えた。更につるぎ町地域おこし協力隊・榮高志さんが「つるぎ町における活動と今後の展開」について講演した。こちらも「住民が墓を立て替える時は無縁墓まで一緒に工事している」などとパワーポイントで説明し

ていた。

懇親会には親子三人など六十人以上が参加、NHK徳島のビデオ「野菜のだいご味」を見ながらつるぎ町半田長野中島靖紀さん、同町二字剪宇古城幸男さんが「世界遺産で地元も元気になってきている」と話した。懇親会に出席の女性たちの希望で、アイトワ視察に出掛ける話も進んでいた。

不耕起栽培の実験田

四国大学と(株)地域サービスは「徳島山間部における

過疎化対策の研究」について共同研究の契約を交わしており、担当者は四国大学が生活科学部の上野昇講師、地域サービスが筆者で、期間は来年三月中旬。筆者は剣山系で急傾斜地の棚田で土砂流出対策として効果のあるカヤ敷農法を平野部へ応用したらどうなるかを調べる事とした。

散防止)で、これらを全て備えたものから幾つかだけ備えたものまで違う畝とした。屈む作業はえらい

従来の農法だと機械で土を耕し、肥料を敷き込んで種をまき、或は苗を植え消毒して作物を栽培する。今回の実験は土地を耕さず表層に発酵堆肥を置き、しかも土を柔らかくしようというもので、

九月十二日、地域サービス後継者の野本農園から提供された育苗①玉ねぎ・トッピング②アロココリー③カリフラワー④ケール⑤紅葉茗(菜の花)を、筆者が四時間掛けて植え付けた。最後の一時間は助っ人あり。鎌の柄状のもので穴を開けてそこへ苗を落とし込んで行くのだが、屈む作業ばかりなので翌日から脛(はざ)が痛くなり、治るまでに数日掛かった。植付直後に水を遣ったが、翌日には雨が降った。次の日に見回したところ、

実験主体は撫養新農業研究会(野田靖之、岡部晃司共同代表)。徳島市春日三丁目対象土地(約百二十坪)を筆者が約十時間掛けて除草。九月六日には撫養研から十人が現地に集まり六畝の畑を作った。ただ、年配者が多くて農作業をしたのは二人だけ、残りは評論家はかりだった。

一つ心配なことは山の急傾斜地と違って水捌けがあまり良くないことである。今後は予定通り生育、収穫に至るかどうかである。究極はカヤとか代替のエリンギなどで畑を覆い、雑草が蔓延(はびこ)るのを抑える。土地を耕さずに、必要な時にスコップで穴を開けそこに種をまくなり苗を植えるなりをする。若しこれができれば省力化となり高齢化対策にもなる。

施用資材は①バカス(植物質有機肥料)②バクタモン(病害防止効果のある微生物農業資材)③米ぬか(植物性有機肥料と微量元素の補給)④エリンギ廃菌床(トウモロコシの芯の粉砕物カヤの代替品)⑤炭(炭素成文補給)⑥竹布(竹製の綿状布:米ぬか等の飛

東祖谷で祭りに参加

九月十五日、四国大学の上野ゼミ研修にアドバイザーとして参加、まず高知県大豊町のリオブラボーというラフティングの会社へ行った。来年、世界大会が開催されるとかで、若い人が次々に集まってきた。全員ウエットスーツに着かえバスで吉野川の会場へ向かったが、筆者は残り付近を散策した。

午後は栗枝渡八幡神社の例大祭会場へ行った。ここは屋島の源平合戦で敗れた平国盛が安徳帝を守護し東祖谷へ遁れて、ここで崩御されたという伝承がある。御火葬場があるところに神社を作ったため、鳥居が無い。上野昇講師は天狗に扮し、学生は背中に菊花の紋章が染められた祭礼用の衣装で濃紺の法被(び)三好市有形民俗文化財を着て毛鍬(けり)などを持ち、行列に参加した。筆者は神輿がお練りをした後の直会に



ラフティングと祭りでの討論



四国大学生が土あげ実習(つるぎ町剪宇)



手に止まった日本ミツバチ。アブかも

だけ同席させてもらった。夜はつるぎ町営の「ラフオーレつるぎ山」に泊った。上野先生はラフティングと祭礼参加についてしっかりと勉強会をしていた。

ミツバチに好かれる

翌十六日は見ノ越からリフトで西島駅へ着き、ジローギューへのコースを取った。途中崩落している所で、上野先生は頂上ロッジ管理人の新居綱雄さんから依頼されてロープを外した。学生ら二行は頂上へ向ったが、筆者は崩落現場から西島駅へ引き返した。

ふと見ると筆者のリュックサックに沢山のミツバチが止まり、次に手の甲にも止まり出した。刺すことは無くだだ舐めている。帰りのリフトに乗った後も一匹が甲に止まり、到着後に飛び立った。同行者は「筆者が朝夕ミツバチを舐めているので、蜂が同類

の仲間と勘違いしたのでないか」という。

急傾斜地で作業

一字の「そばこや」で昼食、県西部民局の二人も参加し、珍しいソバの脱穀機を見せてもらった。そば米の精製には今でもこの機械が欠かせないという。

次に学生達はつるぎ町剪宇地区へ行き、古城さん、切上さんの指導でサラエという独特の道具を使って、急傾斜地で土上げの作業をした。また、大きな看板もきれいに塗り直した。続いて猿飼地区の西岡田治豈さん夫妻を訪問、開花寸前のソバ畑を見学した。ここでもソバの脱穀機があり、飛び切り美味しいそば米を頂いた。

近くて遠きもの

枕草子二六二段は「遠くて近きもの」で極楽、舟の道、人



拜殿を突き抜けた階段(由岐神社)



清めの置き塩(上賀茂神社)



三木家訪問の皆さん

の仲を挙げる。二六〇段は「近くて遠きもの」で「思はぬはらから、親族の仲、鞍馬のつづらをりといふ道」を挙げている。

九月三日四国大学生涯学習の研修旅行はこの鞍馬寺(京都市左京区)を訪ねた。鞍馬仁王門から多宝塔や本殿・靈宝殿までは二六〇段がいうように近くて遠きものだったが、今はケーブルカーが走っており数分で登れる。それでも階段が多く、由岐神社一の谷から貴船神社本宮まで歩くと結構疲れた。

鞍馬寺は毘沙門天を祀る草堂を起源とする寺で、その毘沙門天は靈宝殿に安置されている。木彫毘沙門天像と吉祥天女、善膩師童子を加えた「三尊像」は国宝に指定されている。宝亀元(770)年の創設。牛若丸すなわち源義経ゆかりの寺で、彼の霊を祀る義経堂もある。寺か

ら下りる途中、巨木に囲まれた由岐神社へ寄った。石段が拜殿を潜り抜ける「割拝殿」が目を引き。毎年十月二十二日に行われる火祭りでは主役として脚光を浴びる。今回の旅の最初に加茂別雷神社(上賀茂神社)を訪れた。清めの置き塩や毎年五月十五日の葵祭が有名である。筆者は上賀茂神社や下賀茂神社の元社は三加茂の下鴨神社で、葵祭も元はそこという阿波説に加担するが、由中省造先生は何も触れられなかった。

木屋平三木家を訪問

九月十日、美馬市木屋平の三木家を訪問、三木信雄当主と大勢が歓談した。筆者より一足早く八月に満八十歳になられたというが、精悍で元氣そのものとお見受けした。